

本紙 No.1047 では、JR総連とJR東海労との対立の本質は、JR内における革マル派の影響を受けた役員等による内部対立だと指摘した。同じく本紙 No.1048 では、その証左としてのJR総連の“内ゲバ”的体質について指摘した。本号では改めてJR東海労に目を向けてみよう。

JR東海労は今月に入り、6月に開催した定期大会の内容を「JR東海労第41回定期大会記録集」としてホームページで公開した。これは同大会の議事録に近いような内容であり、開会挨拶に始まり、関係者の挨拶、代議員の発言、閉会挨拶に至るまでが詳細に記録されている。

“JR総連 vs JR東海労”問題の行方：下

元幹部に指摘された「組合員不在」の運動の限界

この中で見えたのが、No.1047 で指摘した、JR東海労OB会の現役役員に批判的なスタンスだ。冒頭、淵上利和委員長は、JR総連の指示通り、中央本部が新幹線関西地方本部を指導すべきと進言するOBがいたことを明かしている。同様に、JR総連との対立のきっかけを作った当事者のJRサービック労働組合（以下、JS労）の柳楽関委員長も、二重加盟の問題等でOBから指摘があったことに触れ、「OBとは何か？OB会とは何か？どういう立場なのか？勘違いされているようです」と強く批判した。これに対し、福島一三OB会長は、淵上委員長の挨拶を聞いて「東海労とJR総連の緊張関係が更に高まってきていると感じる」旨述べ、「このまま破局を迎えて良いとは、誰も希望していない」と吐露し、冷静な対応を後輩達に求めた。

本紙でも指摘してきたところだが、JR総連との対立の芽となったJS労の結成や二重加盟等については、当初JR東海労内でも賛否があったようだ。しかし、2023年12月の臨時大会や本年2月の中央委員会を経て、関西以外の地方本部もまとめ、“JR東海労”としての方針をまとめた。しかしながら、OB会までまとめることはできなかったのだろう。こうした所に、JR東海労が言うところの“M組”が付け入るスキがあったのだ。

OB・OB会のみならず…JR採用組合員からのJR東海労本部批判

もう一つ気になる発言がある。それは、JR東海労にJR採用者で初めて加入したM氏と見られる代議員の発言だ。M氏と見られる代議員は発言の冒頭、そもそもJR総連第40回定期大会を傍聴する予定だったが、参加したところで「針のむしろ」になるため、傍聴の取り止めを本部から指示されたことを明かした。一方で、出席して定期大会の議論経過を組合員に説明する責任があったのではないかと疑問に思っている旨吐露した。後述する通り、元幹部役員ならではの責任感が窺える。その上で、「現在東海労がどこに向かっているのか、どのようになるのか、先が見えないことに私は不安を覚えます」と述べ、「JR総連というバックアップがなければ私たちの将来はないと感じています」と指摘した。さらに、自分も含めて早晚JR採用者4名だけの組織になることについて、淵上委員長がこの4人を支えていく旨挨拶したことを引き合いに、「どのようにして守ってくれるのでしょうか？組合活動の活動資金はどうするのですか？」と、もし仮にJR総連から除名された場合、活動資金もなくJR東海労の運動が行き詰まると強く批判した。

「自分の選択は間違いだったのか」…JR東海労加入の不幸な結末

M氏は、2016年～2023年までJR東海労本部で業務部長や企画部長として交渉や組織運営の舵取りを担い、2023年から2024年6月までは新幹線地方本部の書記長を務めた、JR東海労の元幹部と言える組合員だ。その元幹部が本部方針を正面から批判することは異例中の異例だ。

M氏と見られる代議員は最後に、「最近自分が選んだ人生は間違いだったのかと感じています。私は組合員の立場に立った、JR総連の仲間と共に歩むJR東海労働組合であってほしいと思っています」と述べて発言を終えた。JR東海労のほかJR西労にもJR採用組合員が存在するが、M氏と同じく組合選択の誤りに気付き後悔している者も多いのではないだろうか。間違いに気付いても組織と縁を切れず、結局、JRを退職してしまった者も少なくない。甘言に騙されてJR総連に加入し、JRの職業人生を台無しにしてしまう不幸な組合員を作ってはならない。

JR総連自体の将来性には疑問符が付くが、少なくともJR総連とJR東海労の対立は、組合員が置き去りの中で進んでいるというM氏の指摘は正しい。今後、JR総連設置の「統制委員会」で事実関係の調査が進み、中央委員会等を経て制裁内容が公表されると見られる。それまでの間は、それぞれが正当性を主張し罵り合う、“組合員不在の不毛な対立”が続くはずだ。JR東海労のスタンスに与しない役員等の中に、“M組”、つまり革マル派も介入してくるだろう。セクトやイデオロギーに影響される「組合員不在の運動」の展開を興味深く注目していきたい。